



読字 原田 鏡

No. 669

2012/5/5

日中友好新聞

発行所
日本中国友好協会
〒110-0005 東京都千代田区千代田1-1-1

日中友好協会
岡山支部
〒700-8256 岡山市東区3-8-30 514
TEL:086(272)-3016
郵便番号1100 01250-0-3835

日中友好協会
倉敷支部
〒713-8911 倉敷市遊島中央1-8-1 (宮地方)
TEL/FAX:086(446)-2711

日中友好協会岡山支部ホームページ
<http://rizhong.biz/>
メールアドレス
rizhong86@hotmail.co.jp

中国帰国者問題写真展で訴えたこと

配偶者への生活支援の実現を！

はじめに

私は、岡山市福祉援護課の協力のもと日中友好協会岡山支部が開催した写真展（4月18～20日、岡山市役所1階ロビー）に3日間参加し、受付及び説明役を務めました。

私自身も「残留孤児」と同じ体験をしているだけに、この問題の歴史「及び」現在もつとも必要な配偶者への支援「について」、一生懸命説明しました。

国の棄民政策

この写真展は単に写真だけではなく、約80年前に我が国が対中国に戦争を發動した事に由つて、国策として旧満州（今の中国東北3省）に送り出した開拓団（27万人、敗戦時根こそぎ動員で5万人が徴兵され、実質22万人。其の22万人のうち、約8万人が亡くなった）の問題です。

当時国の棄民政策により、多くが襲撃や、飢餓、厳寒、病気等悲惨な死を遂げました。



写真:左端が中国帰国者の尊厳を回復する岡山の会の平本さんです。マスコミの取材を受ける高杉さん(中央)のサポートをしているところ。

引揚が始まった後も、残留邦人（孤児、婦人）など、沢山の人が残され、1970年代から肉親探しをはじめ、一時帰国、永住帰国することが出来ました。1994年中国残留邦人支援法成立、更に2008年改正中国残留邦人支援法施行、中国

帰国者達の生活、日本語の勉強等の面でおおいに改善されました。今回、一連の歴史的資料も展示されています。さて、戦争、政府の不作為により、生じた日本の歴史にも現れたことのない大勢の「残留孤児」という事実及びこの

の事実にあたる当事者が現在直面している多くの問題に対して、国がまだ充分な解決策を示していません。

配偶者支援を！

「残留孤児」と言うより「配偶者支援を！」
「残留孤児」と言うけれど、今若くてもすぐ古希の70歳になります。

「孤児」が生きている間は「孤児」と共に苦難の人生を歩んできた配偶者が支援法により、問題がないことはないけれど比較的安定的な生活を営むことが出来ます。ところが、「孤児」本人が亡くなった場合、配偶者たちの生活はそれこそ悲しみの淵に沈められた様な境遇に置かされる事になります。そんな惨めな様子ももし中国に居る肉親、親友、知人達に知られると又罵られるに違いない。

何故なら結婚相手は敵国人、敵国人について行って敵国にと言う者が結構居る訳です。従つて、配偶者本人だけではなく、「残留孤児」は勿論、更に日本政府に対しても罵声が殺到されるのではないかと思います。1972年から2005年まで永住帰国者数は26506名(内邦人6312名、同伴家族20194名)。帰国邦人本人及び配偶者の年齢は殆ど70歳以上になります。言語障害、生活習慣の違いにより、介護、養老施設等に於いてさまざまの問題があります。



二世、三世を日中友好の懸け橋に！

これらの問題は帰国邦人本人とその配偶者達が関わっている問題だけでなく、帰国同伴者の二世と日本で生まれた三世達も改正支援法の不完備に對して大きな不満を抱いています。

中国帰国邦人達がまだ生きている(亡くなった人も既に出ている)間に日本政府が至急解決しなければならぬと思います。これから二世及び三世達が自分の両親又は祖父母が改正支援法の不完備により被った惨めな生活について両親又は祖父母の陳情をリレーするでしょう。

二世、三世の体に日本人と中国人の血が流れています。彼らは日本と中国を愛しています。彼らの感情を傷つけないよう、日中友好にもっと貢献するよう、日本を更に愛する為にも問題の早急な解決が重要であります。

中国帰国者の尊厳を回復する岡山の会

平本



「新中国草創期の映画」上映活動

日中国交回復40周年の節目を迎えた今年、協会は文革前に中国から寄贈された中国の名作映画の全国上映活動に再び取り組むことを決めました。全国上映に供するのは、白毛女「ニエアル」阿片戦争」農

奴「五人の娘」天暴れ孫悟空」の6作品です。この名作映画をとおして、新中国建国の歴史を学び、その息吹を感じ、日中友好の心情を国民各層に広げていくことを重視します。

岡山支部では、9月29日に「白毛女」を高島公民館で上映する準備を進めています。



白毛女(原題 百毛女)

104分

1950年・東北映画製作所

脚本：王浜、水華、楊潤身

監督：王浜、水華

(キャスト)

喜児：田華

大春：李百万

黄世仁：陳強

1949年の新中国の成立は世界をゆるがせたが、「白毛女」の誕生は世界映画を驚かせた。歌が入る新形式のリアリズム映画は世界映画史の1ページを飾った。監督は水華と王浜で、主演の田華は新生中国の映画女優としてその名を内外にとどろかせた。

(あらすじ)

1930年代の中国北方のある村で小作農の楊白勞に喜児(田華)という美しい娘がいた。王お婆さんの働きものの息子・大春(李百万)と恋仲だった。2人は新春に結婚式をあげることになっていた。

地主の黄世仁(陳強)が、喜児を見そめて借金のかたに手に入れようとたくらんだ。年の瀬に白勞が黄家に利息を払いにくくと、黄は元金を全部返せと迫り、娘を売る証文に無理やり拇印を押させた。楊白勞は自殺した。

翌朝、父の死を嘆く喜児は大春と引き離され黄家に引きこられた。

喜児は大春との再会を夢みながら黄家で働いたが、ある夜、黄世仁に手ごめにされた。大春は喜児を助けようとして果たせず黄河対岸に逃げた。喜児は身重となり、売りとばされるところを逃げて深山に入った。

きびしい自然の中で美しい黒髪は白髪と化した。山に白髪の仙女伝説が生まれて2年。日



中戦争が始まって八路軍が北上してきた。その中に大春がいた。

小作農と地主との対照的な歌から始まって、喜児の喜びの歌などがリアルな描写と結びついて見るものを引きつけた。痛みと怒りと喜びを描いて古い中国からの解放宣言の映画となった。

山田洋次監督

中国映画とのつきあいは

「白毛女」は、僕たちは学生時代に見てます。そのころはイタリアンネオリアリズムの時代でしょ、ロッセリーニやフェリーニにいかれていた学生としては余りにも素朴な映画だなという感じ。ただしあの当時の学生は中国に対して憧れをもっていましたからね、新中国に。だから毛沢東の国がこんな映画を苦しい条件の中で作っているんだなという感動がありましたね。(日中友好新聞2012年1月5日号1面より)

次回の新聞発送作業は5月21(月)午後1時半、民主会館2階で行います。前回お手伝いくださった方です。

稲葉 和
小内 和
竹内 和
竹内 和
坪井 和
三垣 和

ニホン人は、なぜ、ニホン語をおしえることができるのか?

15

竹内和夫

動詞の変化(1)

⑧で「キレカッタ」はまちがいで、なぜか? という宿題をだしたけど、できたかな? もうすこし考えてみてください。「イイ」と「ヨイ」、「イク」と「ユク」など、どちらも正しいといえるものもある、使い方がちがうだけである。方言だと「エエ、エグなども。」

ことばは人間とともにあるのだから、人に歴史があるように、ことばも変わりながら生きつづける。

さて、形容詞と判定詞の活用は出しているが、動詞の活用にとりかかりかろう。動詞は語形変化の多い品詞だ。順序として、命令形、勧誘・意志形、終止・連体形、連用形、仮定・条件形の順で表をつくる。用例も3人で考えてください。

以下、5段動詞の代表として「書く」を、1段動詞の代表として「見る」を例とする。

「する」と「来る」は不規則動詞。

命令形

待遇	5	1	する	くる
近い	ガケ (カクナ) カキ ナサイ(2語)	ミロ (ミルナ) ミヨ	シロ、ゼヨ (スルナ) シ ナサイ(2語)	コイ (クルナ) キ ナサイ
遠い	ガイテ クダザイ(2語) オカキ クダザイ	ミテ クダザイ(2語) ゴラン クダサイ	シテ クダザイ(2語)	キテ クダザイ(2語) イラツシヤイ

A.: 毎日新聞をよく読め(読みなさい)。

B.: そんなに、ガツガツ食べるな。

C.: よかったら、また、いらっしゃい。

注: (「」は高から低へおちるアクセント「滝」のしるし)



勧誘・意志形

	5	1	する	くる
カコウ		ミヨオ	シヨウ	コヨオ
カクマイ		ミマイ	スマイ	クルマイ

～マイ のかわりに ガク ノ ヨノオ、カガナイ ダロウのような話しことばもある。

A.: いっしょに絵を見よう。

B.: あした、また来ようか?

C.: ぼく東京に行こうと思うんだ。

つづく